

《研究ノート》

小学校家庭科における被服製作
－ 手縫いによる生活に役立つ物の製作事例 －

篠原 祝子・上釜 きみ子

小学校家庭科における被服製作

－ 手縫いによる生活に役立つ物の製作事例 －

篠原 祝子・上釜 きみ子

和文抄録：小学校家庭科の学習内容は、A「家庭生活と家族」B「日常の食事と調理の基礎」C「快適な衣服と住まい」D「身近な消費生活と環境」の4つの内容で構成されている。本研究においては、C「快適な衣服と住まい」の学習内容を取り上げる。C「快適な衣服と住まい」の学習内容は、(1)「衣服の着方と手入れ」(2)「快適な住まい方」(3)「生活に役立つ物の製作」の3項目で構成されているが、(3)「生活に役立つ物の製作」に研究の視点を置く。更に、(3)「生活に役立つ物の製作」は、ア「布を用いて製作するものを考え、形などを工夫し、製作計画を立てること」、イ「手縫いや、ミシンを用いた直線縫いにより目的に応じた縫い方を考えて製作し、活用できること」、ウ「製作に必要な用具の安全な取扱いができること」の3項目で内容が構成されているが、イの中の「手縫いによる製作」について研究を進める。本稿では、被服製作の意義、手縫いに関する基礎的・基本的な知識や技能、手縫いを生かした生活に役立つ物の製作事例などを述べている。

キーワード：小学校家庭科、被服製作、手縫い、生活に役立つ物の製作事例

1 小学校家庭科における被服製作

(1) 被服製作の意義

時代の変遷とともに、今日の衣生活は、既製品によって調達されることが多くなり、家庭での被服製作が少なくなってきている。この様な現状を踏まえ、被服製作の学習がどのような意味を持つかと、疑問視する声も久しい。しかし、被服製作に関する基礎的・基本的な知識や技能を身に付けておくことは、自己を表現したり創造性を生かしたりした物を作る楽しさとともに使う喜びも味わえ、自分の衣生活を見直したり、衣生活をより豊かにしていこうと考えたり、実践したりすることが期待できる。また、手作りの物を作る中で、思考力、判断力、創造力、表現力などが養われ、効率よく計画的に段取りよく取り組むことの大切さも学んでいく⁽¹⁾。更には、手作りを楽しめる、味わえる心のゆとりや物を大切に作る心も育てられる。この様に被服製作で学ぶことは多々あるが、ほとんどの子どもは、衣生活の既製品化に伴い、糸と針を用いて布を縫い合わせて製作するという生活経験が少ないことを踏まえ、小学校家庭科の被服製作の指導では、学習内容である手縫いやミシン縫いに関する基礎的・基本的な知識や技能の確実な習得の定着を図ることが大切である。

(2) 生活に役立つ物の製作のねらい

生活に役立つ物の製作のねらいについては、平成20年度小学校学習指導要領（家庭編）に、「形などを工夫し布を用いて物を製作することを通して、布や生活に役立つ物の製作に関心を持ち、製作に関する基礎的・

基本的な知識及び技能を身に付けるとともに、作る楽しさを実感し、日常生活で活用する能力を育てることである⁽²⁾と示されている。つまり、被服製作に関する基礎的・基本的な知識及び技能を習得させるとともに、子どもの興味・関心を生かして創意工夫させ、個性的な表現を作品に表すことによって、物を作る楽しみやできた作品が家族との結び付きや役立った喜びを味わわせ、家族を思う心情を育て、家庭生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てることである。

なお、「生活に役立つ物」について、平成20年度小学校学習指導要領（家庭編）には、「身の回りの生活を快適にしたり、便利にしたり、楽しい雰囲気を作り出したり、人との関わりを深めたりする物など、生活をよりよくするためのものである⁽³⁾」と示されているように、「生活に役立つ物」とは、生活に必要な物から、必要と装飾を兼ねた物、贈りたい物など、実に多種多様な物であると捉える。

指導者に求められることは、生活に役立つ物の製作のねらい達成に向け、学習指導のための専門的な知識や技能を十分に身に付けておくことである。

2 手縫い

手縫いによる製作指導において、指導者として理解しておくべき基礎的・基本的な知識や技能を、布地（材料）、裁縫用具、縫い方について記述する。

(1) 布地

布地には、フェルト、織物、不織布、キルティングなどがある。布地の選び方は、用途により、布地、色、模様などを考えさせたり、裁ちやすさ、しるしの付けやすさ、折り目の付けやすさ、縫いやすさ、ほつれにくさ、丈夫さなども、布地選びの条件として考えさせ、製作目的に合った適切な布地を選ぶことができるようにする⁽⁴⁾。ここでは、初歩的な手縫いによる製作の布地として扱いやすいフェルトと織物を取り上げる。

ア フェルト

羊毛や合成繊維を積み重ねて、水蒸気・熱・圧力の作用によって、繊維同士を絡み合わせて布を作ったものであるため、ほつれることがなく、裁ち目を縫う必要もない。染色がよく、織物に比べて色が鮮明である。薄手、厚手、大判、小判のものがある。

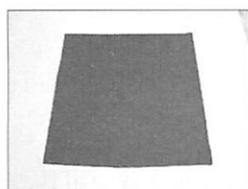


図1 フェルト大判

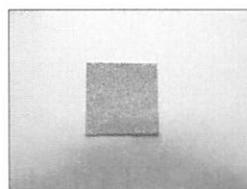


図2 フェルト小判

イ 織物

たて糸とよこ糸が一定の規則によって互いに直角に組み合わせられたものである。代表的な織物として、平織、あや織、しゅす織がある⁽⁵⁾。平織のギンガムやブロードなどは扱いやすい（裁ちやすさ、しるしの付けやすさ、縫いやすさ、ほつれにくいなど）。

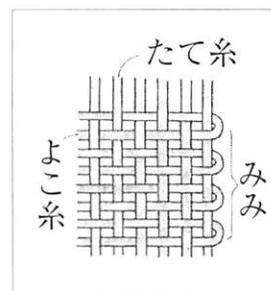


図3 布の折り目

① 平織

たて糸とよこ糸を互い違いに組んだ織り方である。糸同士の束縛性が大きいので丈夫である。平織の織物には、ギンガム、ブロードなどがある。

② あや織

2本おきに組んだもので、黒い組織点が左下から右上へと連なり、斜めの線となって見える。平織と比べると、糸の組み合わせが少ないので、柔らかく、光沢が見られる。あや織の織物には、デニム、サージなどがある。

③ しゅす織

たて糸とよこ糸の組み合わせが少なく、たて糸またはよこ糸が長く連続して表面をおおうので、あや織よりも一層滑らかで光沢がある。あまり丈夫ではない。しゅす織の織物には、サラシ、ドスキンなどがある。

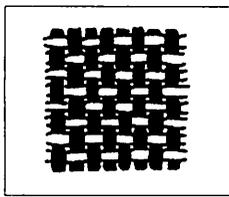


図4 平織

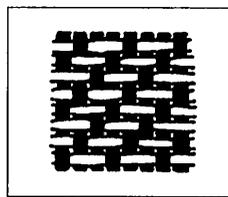


図5 あや織

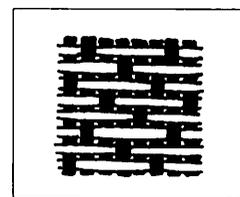


図6 しゅす織

〈布地の名称〉⁽⁸⁾

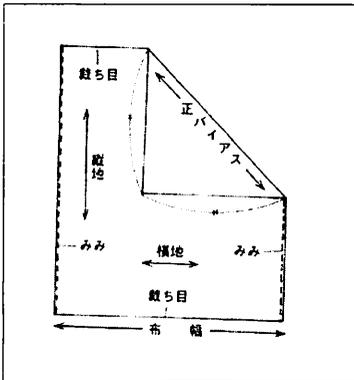


図7 布地の名称

- みみ…………… 織物の織幅の両端のこと。メーカーの名前などがプリントされている。正しく読める方が表地。
- 縦地…………… 布が織られる場合のたて糸の方向をいう。伸びにくい。
- 横地…………… 布が織られる場合のよこ糸の方向をいう。
- バイアス… 斜めの意味で、布目に対して45度の角度を正バイアスという。伸びやすい。
- 布幅…………… みみからみみまでの横地方向の幅をいう。布幅は約72cm（シングル幅）、約90cm（ヤール幅）、約140cm（ダブル幅）などがある。
- 裁ち目……… 裁断した布端のことをいう。

(2) 裁縫用具

手縫いの製作に必要な用具は、採寸をする用具、しるしを付ける用具、布を裁つ用具、布を縫い合わせる用具などである。用具の使用については、糸と針などに触れたことのない子どももいることを踏まえ、安全な正しい使い方を繰り返し指導していくことである。また、安全な正しい使い方は、仕事がしやすく能率が上がり、目的に合った成果を得られることにも気付けるようにする。

ア 採寸をする用具

用具としては、ものさしやまき尺がある。ものさしは、竹製の定規で30cmの長さのものが小学生には使いやすい。まき尺は、まき尺のあて方により採寸値が変わるので、正確に採寸できるよう、採寸する位置やあて方、目盛りの読み方などを指導する。

イ しるしを付ける用具

用具としては、チャコえんぴつ、チャコ、へらなどがある。しるしは、折り目の位置や縫う位置の目印になるように、はっきりと、小さく、数少なく付ける。チャコえんぴつ、チャコなどの色は、赤、青、黄などがある。布地の色を考えて選べるように



図8 チャコえんぴつ

する。へらは、象牙、セルロイドなどで作られている。毛織物など厚地のものには付きにくいですが、一度に複数の布にしるしを付けられるので便利である。力を入れ過ぎると布が切れる。

ウ 布を裁つ用具

用具としては、裁ちばさみ、糸切りばさみ、ピンキングばさみなどがある。裁ちばさみは、布の裁断に用いる。糸切りばさみは、糸切りに用いるが、和ばさみとも呼ばれている。刃先が尖っているため、はさみザックを使用させる。ピンキングばさみは、フェルトなどほつれにくい布地の縫い代の始末に用いるはさみである。刃にギザギザの刻みが入っているため、布地も鋸歯状になりほつれにくくなる⁽⁷⁾。はさみの種類を知り、用途に応じて使い分け、安全に使用できるようにする。布以外の紙などを切ると、切れにくくなる。なお、左利き用のはさみも数本準備しておく必要がある。

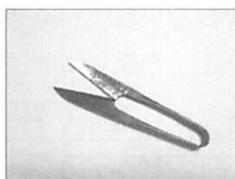
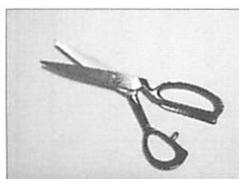


図10 糸切りばさみ

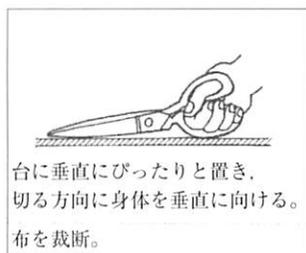


図9 裁ちばさみ

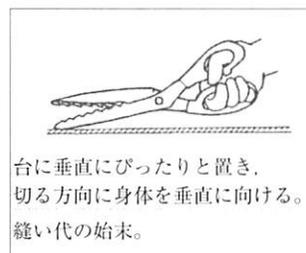


図11 ピンキングばさみ

エ 布を縫い合わせる用具

手縫い用具としては、縫い針、待ち針、糸がある。また、縫い針や待ち針をさしておく針さし（針山）や縫う時に使用する指ぬき（長針用と短針用）がある。

①縫い針・待ち針

縫い針には、和針、洋針（メリケン針）など、長さや太さの異なる多くの種類がある。和針は日本古来のもので、主に和裁に使われる。針穴（メド）が丸く、針先が徐々に細くなっている。洋裁用にも使える。洋針（メリケン針）は、もとは米国製で、洋裁用の針である。針穴（メド）は楕円形で、和針に比べて針先が急に細くなっている。糸が通しやすく、和裁にも使うことがある。種類は1～12号まであり、数字が小さくなるほど大きく長くなる。小学校では、長さによって短針と長針と使い分けをしている。短針は30～35mm位の長さの針、長針は45～55mm位の長さの針をいう。長針は長いので、針に不慣れな子どもには扱いやすいが、使いやすい針を選ばせるとよい。待ち針は、裁断のために型紙を布に固定したり、布と布がずれないようにとめるために用いるが、和裁用待ち針（長待ち針）と玉待ち針がある。小学生には、玉待ち針より和裁用待ち針（長待ち針）の方が転がりにくく、平たい飾りの部分に記名できるので紛失も避けられる。

②糸

手縫い糸とミシン糸がある。手縫い糸とミシン糸では、撚り方が異なる。手縫い糸はS撚り（右撚り）、ミシン糸はZ撚り（左撚り）である。ミシン糸は手縫いの縫製にも使えるが、からみやすいので、糸の長さを短くして使うと起こりにくい。

(3) 縫い方

2枚の布を縫合する方法には、手縫いとミシン縫いがある。手縫いでは、縫い針への糸通し、糸の1本どりや2本どり、糸端の玉結びや玉どめ、なみ縫い、返し縫い、かがり縫いなどを扱う。返し縫いには、本返し縫いと半返し縫いがある。それぞれの縫い方の特徴を知り、製作物に応じた縫い方を考えて、製作できるようにする。縫い糸の長さは、50～60cmぐらいが扱いやすい。

ア 玉結び・玉どめ

縫い針に糸を通した後、糸の本数を1本にする1本どりと2本にする2本どりがある。2本どりが丈夫であるが、製作物や縫合箇所によって使い分けられる。1本どり、2本どりで、縫い始めと縫い終わりに糸が抜けないように、縫う前に玉結びを、縫い終わりに玉どめをする。更に、抜けないう丈夫にするには、縫い始めに返し縫い（ひと針返し縫い）を、縫い終わりに返し縫い（ひと針返しどめ）をするとよい。玉結びの応用として、針に糸を巻き付けて作る方法もある。



図12 玉結び⁽⁸⁾

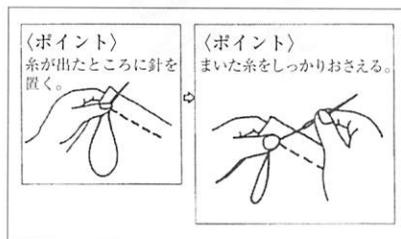


図13 玉どめ⁽⁸⁾

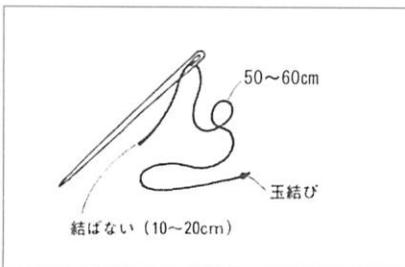


図14 1本どり⁽⁹⁾

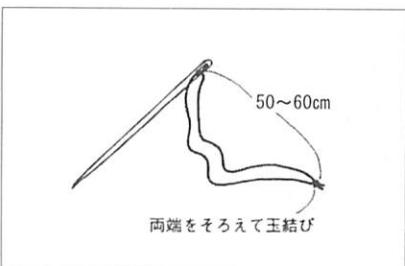


図15 2本どり⁽⁹⁾

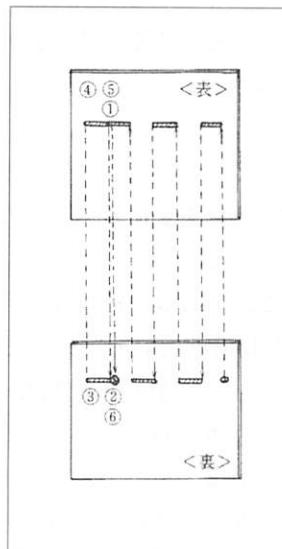
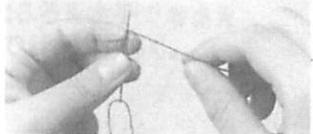
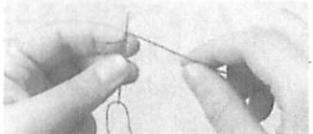


図16 ひと針返し縫い⁽¹⁰⁾

①糸はしの上に針をのせる。



②針に糸を2回くらい巻く。



③巻いたところを左手でおさえて、右手で針を引きぬく。



図17 針を使った玉結び⁽¹¹⁾

イ なみ縫い⁽¹²⁾

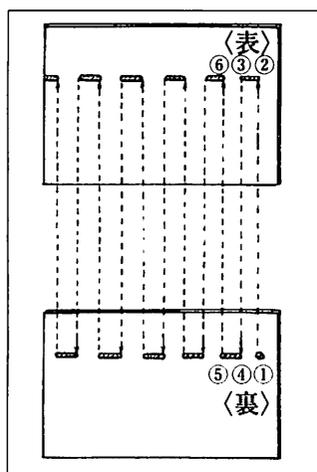


図18 なみ縫い

〈縫い方〉

- ① 布端から縫い始める。
- ② 1針ずつ先に進む。(針目の長さは0.4cmぐらい)
- ③ 2～3針続けて縫う。
- ④ 玉どめをする前に、糸こきをする。

(糸こきとは、布がつかないように指の腹で縫い目をしごいて、糸を落ち着かせること)

※一直線に縫えるよう、縫う前にチャコえんぴつで直線を引かせるとよい。

〈特徴〉

- ① 針目が一直線上に並び、見た目がきれい。
- ② 表と裏の針目が同じ大きさ(長さ)。

ウ 本返し縫い⁽¹²⁾

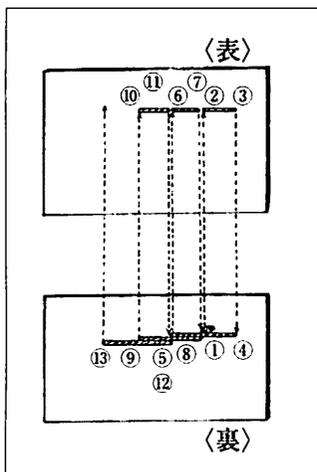


図19 本返し縫い

〈縫い方〉

- ① 1針分(0.4cmぐらい)先から縫い始める。
- ② 1針分元に戻る。
- ③ 2針分先に進む。
- ④ 1針分元に戻る。(元の針目まで全部返す)

〈特徴〉

- ① 表はミシンの縫い目と同じように見える。
- ② 縫い目は、なみ縫い、半返し縫いより丈夫である。

エ 半返し縫い⁽¹²⁾

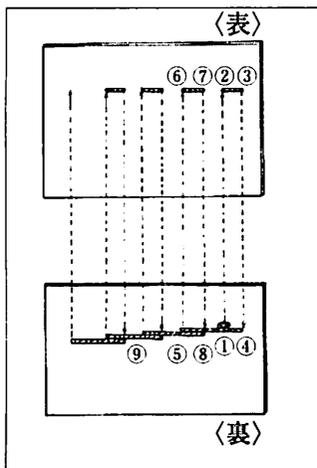


図20 半返し縫い

〈縫い方〉

- ① 針目(0.4cmぐらいの)半分先から縫い始める。
- ② 針目の半分まで元に戻る。
- ③ 1針分先に進む。
- ④ 1針分の半分元に戻る。(元の針目の半分まで返す)

〈特徴〉

- ① 表はなみ縫いと同じように見える。
- ② 縫い目は、なみ縫いより丈夫である。

3 手縫いによる生活に役立つ物の製作事例

(1) フェルトを使った生活に役立つ物の製作

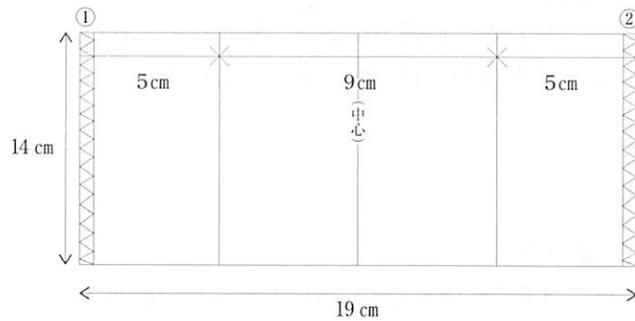
ア ティッシュケース入れ

〈材料・用具〉 ・フェルト たて14cm よこ19cm

・裁縫用具 (ものさし、チャコえんぴつ、縫い針、糸、待ち針、裁ちばさみ、糸切りばさみ、ピンキングばさみ)

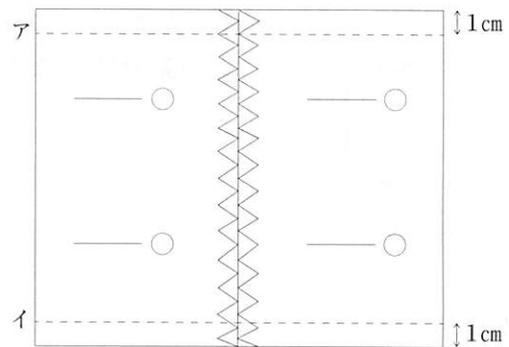
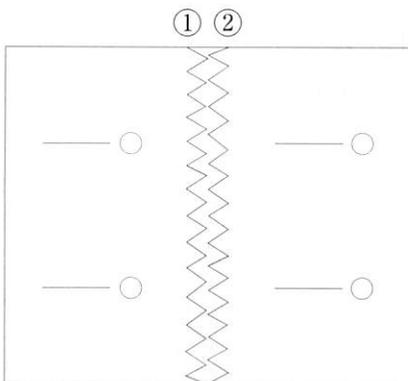
〈作り方〉

1 しるしを付け、①②の両端をピンキングばさみ (0.5cm位) で切る。



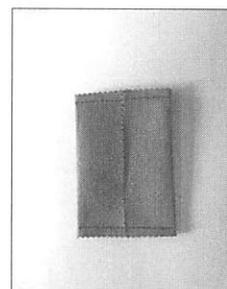
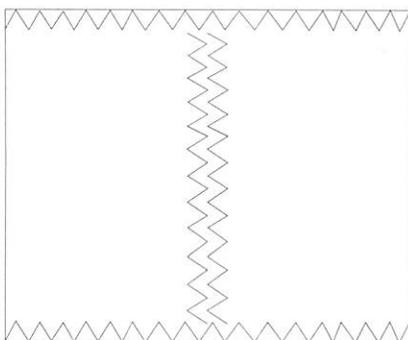
2 ①②を突き合わせる。待ち針でとめる。

3 縫う位置をチャコえんぴつでしるしを付け、その上を縫っていく。(アとイ)



注1:縫い方は、フェルトを2枚重ねて縫い合わせることになるので、返し縫い(半返し縫い・本返し縫い)が縫いやすい。アイは、同じ縫い方でも違う縫い方でもよい。

4 アとイの縫い代をピンキングばさみ (0.5cm位) で切る。(完成)



イ キーケース（鍵のカバー）

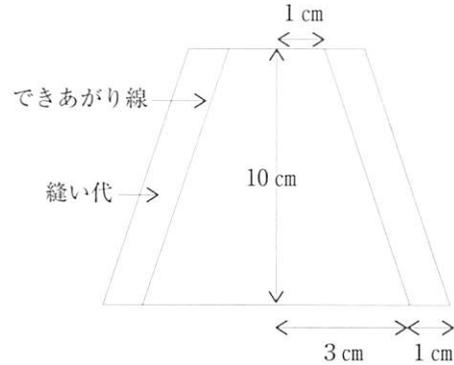
〈材料・用具〉 ・フェルト たて10cm よこ8cm

・型紙用の用紙（筆記用具）

・裁縫用具（ものさし、チャコえんぴつ、縫い針、糸、待ち針、裁ちばさみ、糸切りばさみ、ピンキングばさみ）

〈作り方〉

1 できあがりの大きさに、縫い代を加えた型紙を作る。

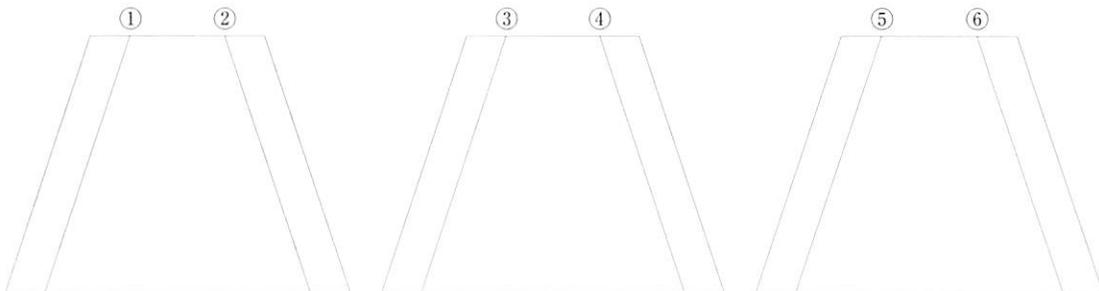


2 型紙を、フェルトの上に置き、待ち針でとめて、型紙通りに裁断する。3枚フェルトを裁つ。（1個の製作に3枚使用する）

注1：フェルトに型紙通りにしるしを付けてから、裁断してもよい。

3 フェルトに、できあがりのしるし（①～⑥）を付ける。

注1：型紙の縫い代部分を切り取ると、できあがりのしるしが付けやすい。



4 ①と③のできあがりのしるしを合わせて手縫いをする。

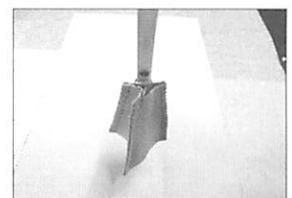
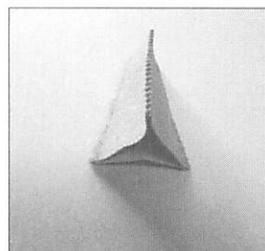
5 ④と⑤のできあがりのしるしを合わせて手縫いをする。

6 ②と⑥のできあがりのしるしを合わせて手縫いをする。

注1：4・5・6の縫い方は、3辺とも同じ縫い方でも違う縫い方でもよい。フェルトを2枚重ねて縫い合わせることになるので、返し縫い（半返し縫い・本返し縫い）が縫いやすい。

注2：4・5・6の縫い方順は1例である。3辺が縫い合わされたらよい。

7 3辺の縫い代をピンキングばさみ（縫い代の半分位）で切る。（完成）



ウ カードケース入れ

〈材料・用具〉 ・フェルト たて14cm よこ18cm

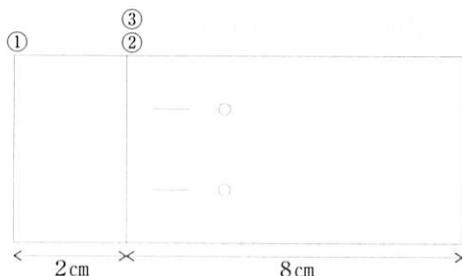
・裁縫用具 (ものさし、チャコえんぴつ、縫い針、糸、待ち針、裁ちばさみ、糸切りばさみ、ピンキングばさみ)

〈作り方〉

1 フェルトにしるしを付ける。



2 フェルトの③の端を、②のしるしに合わせる。待ち針でとめる。

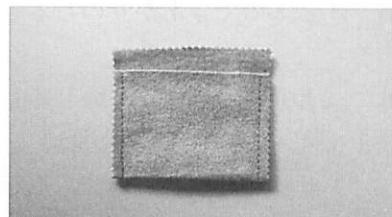


3 縫う位置にしるしを付け、そのしるしの上を縫っていく。(アイ)



注1:縫い方は、フェルトを2枚重ねて縫い合わせるので、返し縫い(半返し縫い・本返し縫い)が縫いやすい。アとイは、アイとも同じ縫い方でも、違う縫い方でもよい。

4 縫い代の端をピンキングばさみで切る。(完成)



(2) 織物を使った生活に役立つ物の製作

ア お手玉

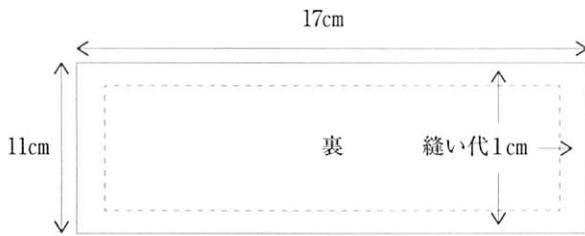
〈材料・用具〉 ・布 たて11cm よこ17cm

・中身 (数珠玉など)

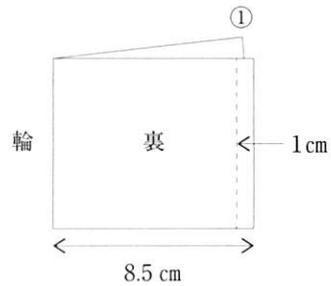
・裁縫用具 (ものさし、チャコえんぴつ、縫い針、糸、待ち針、糸切りばさみ)

〈作り方〉

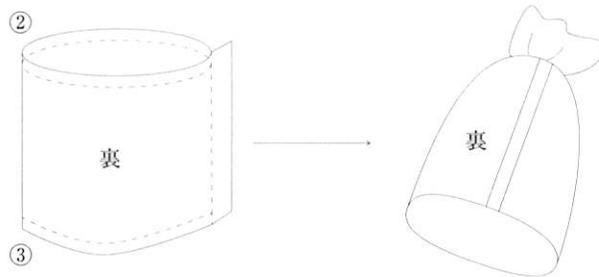
1 布 (裏地) に、チャコえんぴつで、しるしを付ける。



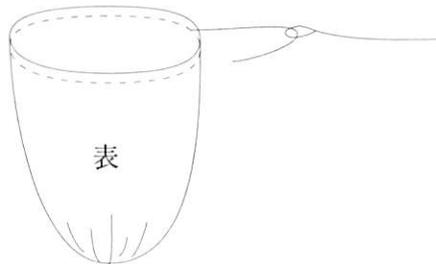
2 1を半分 (中表) に折り、①を縫う。なみ縫いの場合、縫いはじめと縫い終わりを、ひと針返し縫いにする。



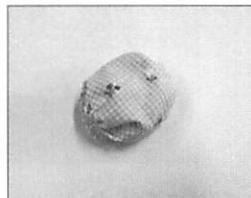
3 なみ縫いで②を縫い、縫い終わったら糸を引き、口を縮めてとめる。



4 3を表に返し、③をなみ縫いで縫う。



5 4に中身を入れ、縫い代を中に入れてながら口を縮め、しっかりとじる。(完成)



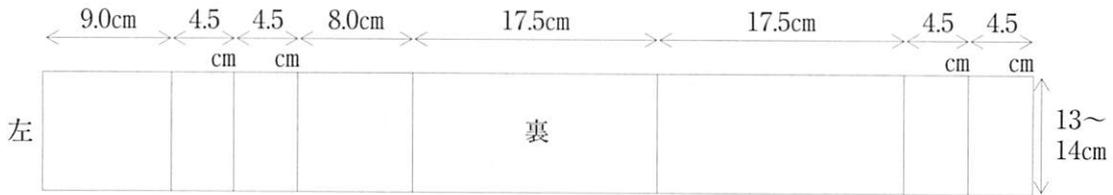
イ ティッシュ・ハンカチーフ入れ⁽¹³⁾

〈材料・用具〉 ・布

・裁縫用具（ものさし、チャコえんぴつ、縫い針、糸、待ち針、糸切りばさみ）

〈作り方〉

1 裏地を上にした布に、チャコえんぴつで、しるしを付ける。



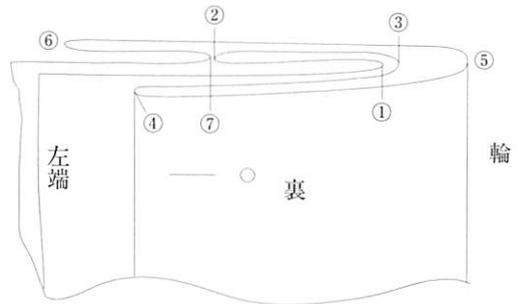
2 しるしを付けた布を、山折り、谷折りの、折り目を付ける。

①④⑤⑥は、山折りに折る。 ②③⑦は、谷折りに折る。



注1：アイロンで折り目を付けてもよい。

3 左端から布を、山折り、谷折りをしながら、順番に折り重ねていく。②と⑦の突き合わせがずれないように、待ち針でとめる。



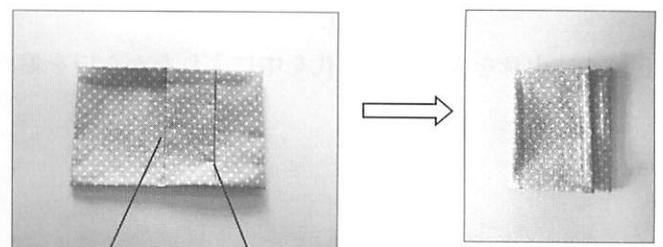
4 縫う位置を、チャコえんぴつでしるしを付ける。その上を、手縫いで縫っていく。(①②の2か所)

①②とも同じ縫い方でも違う縫い方でもよい。なみ縫い、半返し縫い、本返し縫いなどで縫える。なみ縫いの場合、縫い始めと縫い終わりを、ひと針返し縫いにする。

5 表に2回返す。(完成)

1回目：返し口から輪を引き出し、表に返す。

2回目：返し口を表に返す。



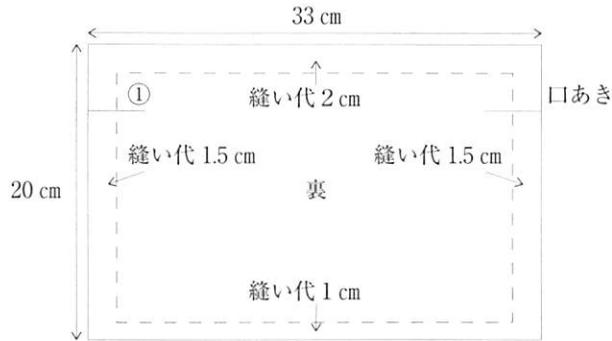
ハンカチーフを入れる ティッシュを入れる

ウ 袋

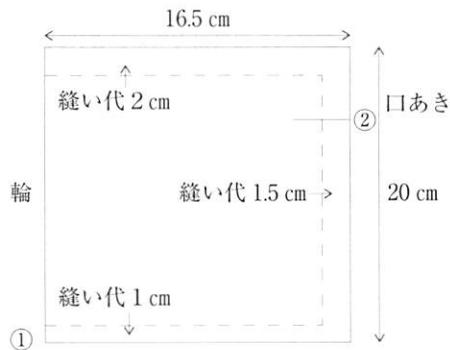
- 〈材料・用具〉 ・布 たて20cm よこ33cm （出来上がり寸法 たて17cm よこ15cm）
 ・ひも 1本（36cm）
 ・裁縫用具（ものさし、はさみ、チャコえんぴつ、縫い針、糸、まち針、糸切りばさみ）

〈作り方〉

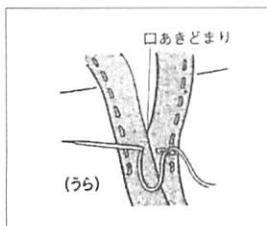
1 布（裏地）に、チャコえんぴつで、しるしを付ける。



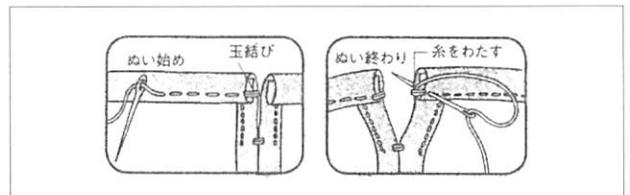
2 1を半分（中表）に折り、①から②（口あきどまり）まで縫う。なみ縫いの場合、縫い始めと縫い終わりをひと針返し縫いにする。



3 わきの縫い代を開き、三つ折りにして口あきどまりの部分は丈夫（ひと針返し縫い）に縫う。



4 出し入れ口（ひも通し口）口あきのわきを縫う。縫い始めと縫い終わりは丈夫（ひと針返し縫い）に縫う。



5 袋を表に返し、ひも通しを使ってひもを通す。（完成）



英文抄録：昨今、子どもたちの生活経験や興味・関心などは、一人一人異なり、学習への関わり方も違っている。子どもたちが生き生きと楽しく学習するためには、子どもの思いや願いを適切にとらえ、それらをさらに伸ばしていけるように指導支援をしていく必要がある。そのためにも、指導者は、直接学習指導に必要な内容だけでなく、その背景となる知識や技能、関連する内容についても熟知した上で、子どもの状況に応じて弾力的に指導していくことが大切である。

本稿には、小学校家庭科における被服製作の意義、手縫いに関する基礎的・基本的な知識や技能、手縫いを生かした生活に役立つ物の製作事例として、基礎的・基本的な知識や技能の習得を図るための事例や発展的な学習内容として製作できる事例を記述している。

キーワード：小学校家庭科、被服製作、手縫い、生活に役立つ物の製作事例

(文献)

- (1) 『小学校家庭科の研究三訂版』 教師養成研究会 家庭科教育学部会編著 学芸図書2001年80頁
- (2) 『小学校学習指導要領解説家庭編』 文部科学省 2008年44頁
- (3) 『小学校学習指導要領解説家庭編』 文部科学省 2008年44頁
- (4) 『小学校家庭科資料集被服』 櫻井純子編著 橋本都・篠原祝子編集協力 明治図書1994年20頁
- (5) 『小学校家庭科資料集被服』 櫻井純子編著 橋本都・篠原祝子編集協力 明治図書1994年21頁
- (6) 『小学校家庭科資料集被服』 櫻井純子編著 橋本都・篠原祝子編集協力 明治図書1994年18頁
- (7) 『小学校家庭科資料集被服』 櫻井純子編著 橋本都・篠原祝子編集協力 明治図書1994年16頁
- (8) 『小学校家庭科資料集被服』 櫻井純子編著 橋本都・篠原祝子編集協力 明治図書1994年17頁
- (9) 『小学校家庭科資料集被服』 櫻井純子編著 橋本都・篠原祝子編集協力 明治図書1994年24頁
- (10) 『小学校家庭科資料集被服』 櫻井純子編著 橋本都・篠原祝子編集協力 明治図書1994年22頁
- (11) 『わたしたちの家庭科56』 開隆堂2016年19頁
- (12) 『小学校家庭科資料集被服』 櫻井純子編著 橋本都・篠原祝子編集協力明治図書1994年22～23頁
- (13) 『授業に役立つ資料集』 鹿児島県小学校教育研究会家庭科部会資料部1990年

(参考文献)

- (1) 『小学校家庭科指導基礎講座』 岩崎芳枝・武田京編集 開隆堂1978年
- (2) 『被服の製作—着心地のよい被服製作技術習得をめざして—』 開隆堂1989年

Clothes Making in Home Economics in Elementary Schools – Examples of Production for useful for everyday life by Hand-sewing –

Noriko SHINOHARA, Kimiko KAMIGAMA

Nowadays children's life experiences, interests and concerns are not the same for each children and their involvement in learning is different for each of them.

In order to enjoy learning lively for children, it is necessary to grasp their thoughts and hopes adequately and guide and support to extend them furthermore.

Because of that, it is important for instructors to provide guidance flexibly depending on the situation of children based on the perfect knowledge of the concerned text of the course of study as well as the knowledge and skills in their background.

This article describes the significance of clothes-making in elementary schools, foundational and basic knowledge and skills about hand-sewing, the examples to learn the foundational and basic knowledge and skills as the examples of production for useful for everyday life to make use of hand-sewing and the examples of advanced learning contents.

Key Words: Home Economics In Elementary Schools, Clothes Making, Hand-sewing, Examples of Production for useful for everyday life